



## 宮司プレス第十八号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成十九年十一月六日

宮司の柴田です。

よつやく秋風颯々(さつさつ)として、閉門の秋も深まりゆく昨今です。朝明けが遅く夜の帳がおりののが早く、季節は移り変わりの速度を早めたようです。明後日(十一月八日)は、立冬ですが、私どもの装束(しょうぞく)も衣替え(ころもがえ)であります。

十一月は霜月(しもつき)、「食物月(おしものつき)」の略です。文字通り霜(しも)が降る月であるから、霜月とする説が有力です。他にも「洞(しほ)む月」や「末(すえ)つつき」がなまったものであるとするものもあります。さらに、「食物月(おしものつき)の略であるとする説もあります。

実りの秋です。

多くの果実や穀物の実る秋ですが、「みのる」は「実成る」でありまして、「黄金色の頭を垂れる稲穂」の姿に象徴される、まさに収穫の秋であります。英語の秋(Fall)は、木々の落葉に由来し、生命の衰えや没落の感覚です。日本の秋は、柿の実が赤くなるように、多くの果実穀物が「赤らむ」、熟することに由来し

ます。日本語の秋は、「明らむ」であり、光に満ちた明るい季節のようですね。

日本人の大目標は、立派なお米や農作物を神様にお供えする事でした！

そのために運命共同体としての地域社会を築き、神様を喜ばす心を忘れないで一生懸命働き、収穫したお米や農作物を氏神様にお供えをし、皆で喜びを分かち、感謝の誠を捧げたのです。そして収穫を神に感謝し翌年の豊作を祈るといふ稲作が作り出してきた美しい伝統が、今月の二十三日に執り行い、新嘗祭にいなめさい)であります。やはり、正月も、春の枕詞(まくらことば)が「冬籠り(ふゆ(もり))」であるように、年の神様を迎えて衣服を新しくし、心静かに家族と過ごし、神様や祖先の霊に感謝し、豊作を祈る伝統行事でした。

伝統文化が喪失されています。

ところが、「新嘗祭」が「勤労感謝の日」と制定され、せめて「新穀感謝の日」としてもらいたいのですが、正月も多くの人が海外旅行をしたり、ホテルで新年を迎える有様

クリスマスの方がにぎやかになってきました。「新嘗祭」「お正月」に象徴される日本の美しい伝統文化が風前の灯火で、まさに伝統文化が失われ、日本の無国籍化が加速しています。どの国にも、その社会の中心には、確たる伝統や文化があり、その文化をよりどころとして人々の生活があります。

家庭に神棚仏壇がありますか。

やはり、私は、家庭に謙虚に自分をみつめ直し、新たな気持ちで前向きに生活をしていく為の「心安らぐ空間」が必要だと思います。自分の住む家が、「まほろば」(つるわしい場所)という意味の古語)である為にもですね。

それが、日本人の伝統文化の一つで、よりどころとしてきたものではないかと思うのです。仏壇は家の御祖先ですが、神棚は「国」の親神で、仏壇は家系につながり、神棚は日本人として、国の存在があり地域社会である故郷の存在があるという事を自覚し、国の大元につながるのだと思います。ですから、日本人としての自覚を持ち、地域社会とのつながりを大切にしつつ、家が栄えていく為にも神棚をおまつりする事が大切です。そして、日本の麗しい美風を取り戻し、伝統文化を失ってはならないと思つのです。本年も余すところわずか二ヶ月ですが、秋のように光り輝く生活をお送り下さい。

十月の祭典行事報告

六連島八幡宮例祭 十月四日、五日



湯立て神事

田の首八幡宮例祭 十月十三日、十四日



神嘗祭 十月十七日



サイ上がり神事練習会 十月十九日  
秋季例大祭 十月二十日、二十一日  
\*前夜祭・本殿祭の様子



\*剣道大会、御神幸祭



\*サイ上がり神事



十一月の祭典行事予定  
明治祭 \*十一月三日  
福浦金刀比羅宮月次祭  
\*十一月十日

朝粥会

\*十一月二十一日 早朝

どなたでも参加できます、祈願祭  
の後、宮司講話、お粥を食します

新嘗祭 \*十一月二十三日

六連島八幡宮新嘗祭

\*十一月二十五日

十一月の宮司の予定

リバース彦島第八回歴史ウォーク参加

\*十一月四日

山口県神社庁下関支部総代敬婦合同  
研修会参加、講演「神宮大麻頒布の  
意義」 \*十一月七日

建国記念の日下関奉祝会役員会出席

\*十一月十四日

玄洋中PTA常任委員会

\*十一月二十一日

当宮総代会開催 新嘗祭終了後

\*十一月二十三日

油谷町の伊上八幡宮新嘗祭を奉仕

\*十一月二十五日

下関市内私立高校PTA懇談会に出席

\*十一月三十日